

令和7年6月26日

教育長答弁実録

（教育委員会）

6（1）

（問）地域に根ざす、小中学校、高等学校の在り方について

教育委員会として、地域における学校の存在意義をどのように認識しているのか、教育長に伺う。

また、地域コミュニティの維持という視点を持ちながら、市町が小中学校の統廃合を検討する際にどのような支援や働きかけを行っていくのか、併せて教育長に伺う。

さらに、県立高校について、統廃合ありきではなく、地域に学校を残すという観点から、今後どのように取り組んでいくのか、併せて教育長に伺う。

（答）

地域における学校の存在意義といたしましては、学校は、地域の未来の担い手である子供たちが、地域の良さを学び、成長する場であるとともに、地域住民の交流の場としての役割なども果たしており、教育的意義のみならず、様々な社会的意義を有するなど、重要な意義を有しているものと認識しております。

市町が小・中学校の統廃合を検討する際には、教育条件の改善に加え、それぞれの地域の実情を踏まえて保護者や地域住民の十分な理解を得ることが重要であると考えております。

県教育委員会といたしましても、市町が、

- ・ 学校を存続させる場合には、複式学級を有する学校への教員の加配や複数校兼務発令などを行い、
- ・ 統廃合をする場合には、統合する学校への教員の加配、非常勤講師の措置や遠距離通学費の補助を行うなど、

教育環境に配慮した助言や支援を行っているところであり、今後とも、市町の実情を踏まえた支援に努めてまいります。

次に、県立高等学校につきましては、昨年3月に第2期の「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」を策定し、自治体内から県立高等学校が無くなることのないよう留意することとしたほか、地域のニーズや生徒、保護者の希望等に応えることができる学校の配置を行うこととしたところでござ

います。

とりわけ、1 学年 1 学級規模校につきましては、学校間連携など教育環境の充実に取り組むとともに、昨年度からは、各学校の魅力を発信するポータルサイトやW e b 広告による情報発信の強化、また、学校活性化に向けた予算を拡充し、学校及び学校活性化地域協議会の主体的な取組を積極的に支援しているところでございます。

県教育委員会といたしましては、県立高等学校が、引き続き、生徒・保護者や地域から求められる役割をしっかりと果たしていけるよう、地域の皆様の御理解と御協力をいただきながら、学校の教育環境の充実、魅力化・活性化に取り組んでまいります。